

KODAK
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



圖解

大嘗會優蒙

73
880
1



明 7波 3
號 880
心 1



大嘗會便蒙自叙

禮大者四曰冠曰昏曰喪曰祭中國唯祭是重
遠古以降恒例臨時祭祀其目最多就中特為
大祀者是此大嘗耳可謂大之又大禮之樞要
也而永亨滄壤王室如綫大禮不襲三百年間
人為古談雖貞享昇平初興廢亦無能有連綿
去歲戊午再繼絕千古之禮復行於今萬葉之
美豈有大焉夫以朝賀之儀即位之禮雖其大



大嘗會便蒙自叙

上

不出乎大嘗之左而槩李唐制為之模非中國
從來之式唯於大嘗則否山藍之摺可以目華
人之古壽詞之奏不可得播蕃客之耳實是中
國禮儀純粹無所駁雜者也凡好古之士有識
之人誰不樂此禮中興予幸奉記得大禮之
鴻命去歲仲冬傳馬到洛雖會有重服不得入
宮城而東馳西驅略明其趣朝問夕正漸得其
與今春東歸筆之錄之自國郡卜定至豐明節

會當時進退巨細悉舉上世規式參差必附分
為九卷以擬上

官更用國字釋當日次第其於由奉幣以上辰
節會以下者唯述其梗槩加之前後以示門生
及就問之客比之九卷則十之一耳然而當日
威儀可以命畫工宮殿營作足以役工匠是以
門生往往請錄之梓予曰目視猶不免無差况
借觀於人者乎苟差以毫釐繆以千里不昔者

數月然而甲乙^レ逆寫^テ日不暇給^カ門生或空手^{ニテ}而待^ル於是不得已^ニ初屬^ス劔^ノ氏其所要在^{スル}便童蒙^ニ故務譯^ス雅言^ヲ於俗辭名曰^テ大嘗會便蒙^ト恐人^{ラス}或以^ニ此書^ヲ為^シ昂上^ニ官者^ト故題^ス其首^ニ也爾^リ

元文四年十一月

羽倉東進荷田在滿書

大嘗會便蒙上

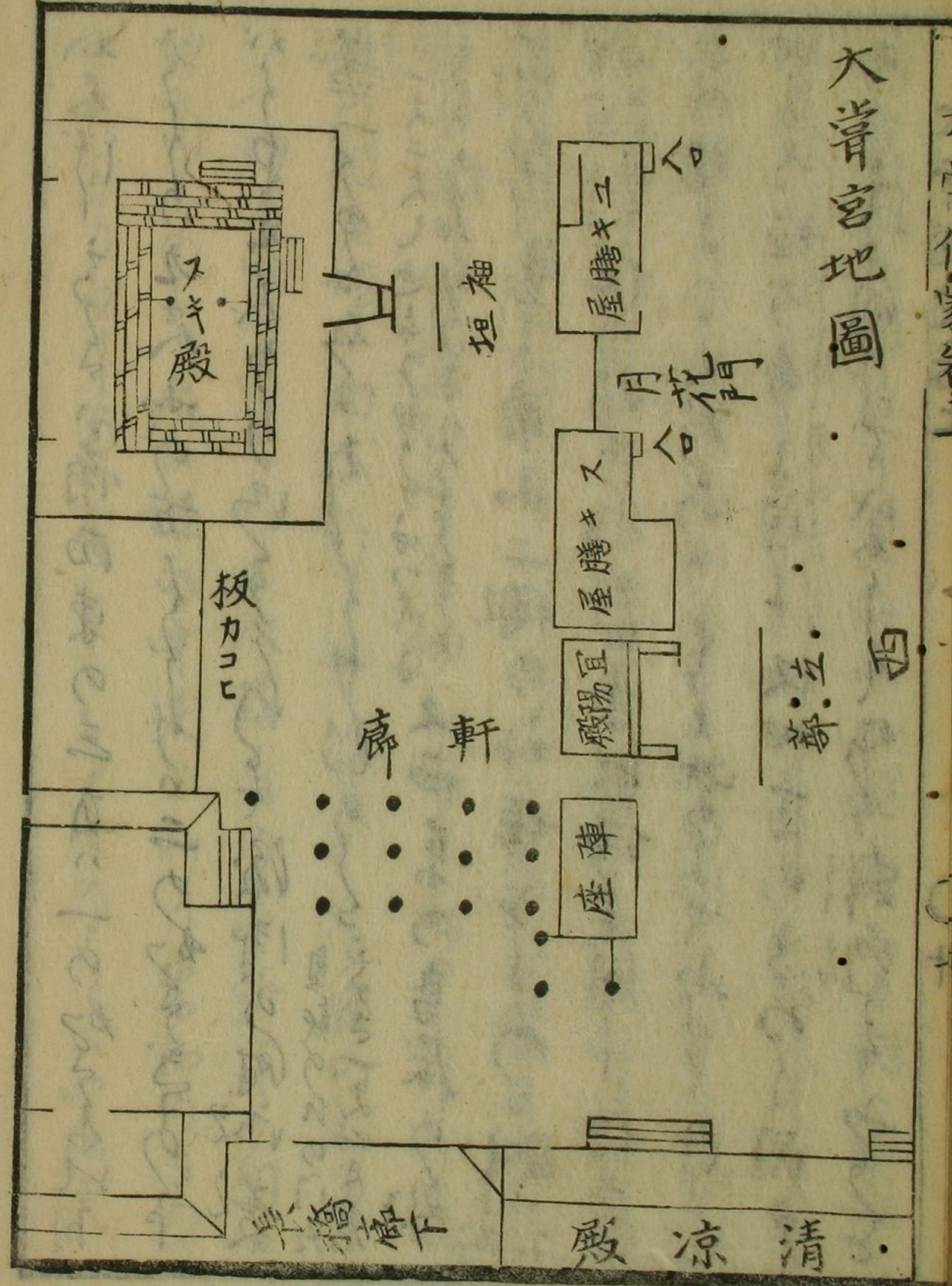
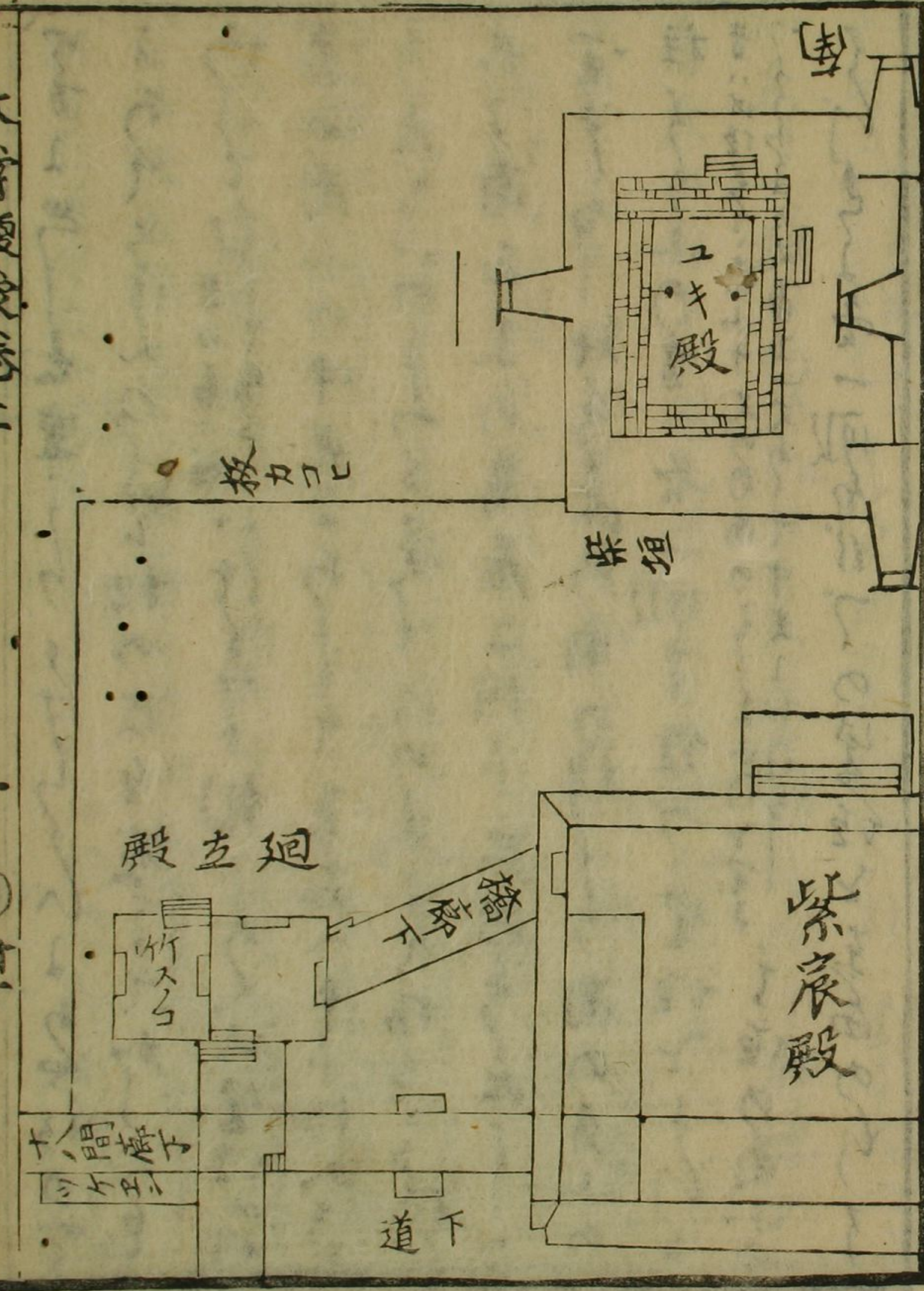
元文三年大嘗會

大嘗會といふは、その年の新穀を天子は、
天下の諸神に供へ、汝等、諸神と
くく、嘗のいふが、大嘗といは、又新
穀を供へ、新嘗といふは、新嘗と
いふは、日本紀神代上、天照大神の
嘗といふは、和なり、是は、
き、め付、り、ま、あ、る、
天稚彦、新嘗とあ、る、
大嘗、

大嘗會便蒙上

六條宰相中將有起卿と兼近江権守と岩崎
 右官掌紀氏信と由行と大塚と一平と他
 之東門の権左衛門初より兼左の介と守
 山三人と延任の目と前後とよるよあ
 又廣橋左大辨宰相兼朝臣と兼丹波守
 と一正親町右中將実連朝臣と兼丹波守
 田之東門大尉紀氏房と兼丹波守
 之基國司と一田と一又後使と
 鈴鹿石土山渡河守武屋五人と一
 松本村、つり鈴鹿内膳守島石と兼源
 蓄信

人丹波國桑田郡鳥居村へ下り各々
 田とトハ定むと大田と一田と一
 を撰子福と一
 次よ荒見河後と一と一
 すと一と一と一と一と一と一と一
 罷咎と一と一と一と一と一と一と一
 嘗と一と一と一と一と一と一と一
 并史と一と一と一と一と一と一と一
 が病と九月晦日と河後と一と一と一
 買物と一と一と一と一と一と一と一



其の西一院餘もあつたをてふに十八宮の廊下と
 南の大嘗宮は水の宮庭より通つてまゝ板圍と
 して板圍の南よりまゝ東のまゝ入りま
 ぎ入口をまゝつてありま庭の東山の角まゝ
 又板圍とてしるす又是宮庭の西よりまゝこの板
 り通つてまゝあつて水の宮庭よりまゝ南の
 大嘗宮の山の宮庭まゝ又板圍とてしるす又月苑つ
 の南に廊下とてしるすまゝ圍ひしるす但此の膳屋
 昔の膳屋とてまゝの膳
 庭の膳屋の西あり
 但此の膳屋とてしるすまゝ料

寸其膳屋の東南の角よりまゝ南に二院ありま
 一尺五寸の棚を竹の割竹と釘を打て打て
昔の棚
ハ格
作棚のまゝとて同しなり二人餘り供神の地の盛
 るは棚のまゝとてくし棚ありあつた通りまゝ外
 庭圍の上は推の葉とあつてより竹より押縁と
 二通りあつて又月苑つと宣陽殿とありは
 廊下とてまゝとてしるす圍ひしるすまゝ
 の膳屋とてしるすまゝの神膳とてしるす料
 理とて膳屋より竹棚より二つの膳屋共と名
 づけて南の角より西の方よりありまゝとてしるす

神ろお戸が有面より...
を纏ふて結びはきかく也又日花門の小の
廊のたより...
釜れ産る...
...
新但びと...
大嘗會...
書け...
かくの如し

大嘗會便蒙卷上續

